

豊平川は上，下流で洪水危険度が変わる

- 上流域は、定山溪ダムと豊平峡ダムで洪水制御されている。
- 中流域は、溪谷が発達し、河床に露岩が出ており、疎通能力が少ない(河床勾配が急だから下流の改修無しにここを河川改修してはいけない)。
- 下流域では、河積(川の断面積)を確保し、**河畔林**の管理を徹底しなければならない(高水敷に洪水が乗ると河畔林は崩壊し下流の橋に引っかかり氾濫を起こす)。

豊平川は上・中・下流域で洪水危険度が変わってきます。

上流域は定山溪ダム・豊平峡ダムの2つのダムで洪水制御されており、安全性も高いのですが問題は中流域です。溪谷が発達し河床に露岩が出ていて、疎通能力が少なく川の水が流れづらくなっています。これを改修し流れやすくすると下流域の危険度が高くなります。

川はどこかを触ると必ず上・下流が弱くなります。ですから、河川改修をやる時のポイントは1カ所ではなく河道全長にわたって目を配りながら改修しなければ、思わぬところで被害が生じる可能性があります。中流域の疎通能力がない、水を流す能力がないからといって川を触ると、その影響が必ず下流側に来ます。ですから、下流側と上流・中流側は必ず同じテーブル上で、治水についての意見を整合させながら河川改修をやらなければならないわけです。

また、下流域では川の断面積を確保し、河畔林の管理を徹底しなければなりません。高水敷に水が乗ると河畔林は崩壊し、下流の橋に引っかかります。河畔林の樹高が例えば5mあるとすると根っこはたかだか50~60cmしか入っていません。ここに水が乗るとアツという間に川の水で木が流されてしまいます。それが下流の橋に引っかかるのです。引っかかるとそこがダムになります。ダムアップといいますが、そこから水が溢れることが色々ところで報告されています。

豊平川は大変堤外地が広いので、そこに林ができ、野鳥のすみかになっています。非常に大事なことですが、その機能を河畔林だけに押し付けるのは無理です。これは札幌市が公園を整備し、そこに森を作るということで本当はやらなければいけない。それを安易に川の中の林を利用すると、洪水時には思わぬしっぺ返しをくらうということを知っておく必要があると思います。